

生物多様性と生態系サービスに関する政府間科学政策プラットフォーム（IPBES）
に関する第2回アドホック政府間マルチステークホルダー会合
（2009年10月5-9日、於ナイロビ）結果概要

1 背景

生物多様性や生態系の破壊について、政策と科学のインターフェースを強化するための組織（いわゆる生物多様性版のIPCC）の創設を目指して議論。

昨年11月に第1回会合がマレーシアで開催。同会合では、政策と科学の間に存在するギャップをまず分析する必要性が認識された。

今回の会合ではUNEP事務局が作成したギャップ分析をベースに議論。

2 議論の概要

（1）進め方

初日・2日目：ギャップ分析報告書の項目（知識の創造、知識の分析、知識の活用、途上国の能力開発、科学の独立性）に沿って議論。

3日・4日目：IPBESに求められる機能、組織を議論。

5日目：4日間の議論を総括する議長サマリーの文言を議論。

（2）各国の立場

- ・ 米国、豪州、ロシアを除き全ての国が新たな組織の創設の必要性を支持。
- ・ 途上国も、能力開発などの前提条件付きで、新組織の創設を支持。
- ・ 我が国は、日独環境大臣の共同書簡にも触れ、来年のCOP10までの合意の必要性を強調。

（3）議論の進展

米国、豪州の反論故に、今回の合意は困難との認識が広がった。

米国、豪州は、未だ議論が不十分で、新たな組織設立に合意するためには更なる情報収集、議論が必要であるとの立場。

今回は合意に至らないが、来年の4月に第3回会合を開催すれば合意に到達できるとの期待は参加国間で共有されていた。

3 今後の予定

第3回会合の開催を、来年2月のUNEP特別管理理事会で決定予定。

第3回会合までに、①能力開発の現状、進行中の分析の状況に関する情報を収集して提示する、②IPBESの組織・構造に関する各国の立場を今後提示し、事務局が取りまとめて提示することとされた。